

# 七浜

## 第169号

福島県公立学校  
退職校長会  
いわき支部  
発行責任者 一  
沢 宏 集  
編 集  
七浜編集委員会

### 今号の主な内容

- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| 1面 | 新年を迎えて(支部長あいさつ)新春諷詠 事務局だより  |
| 2面 | 新春に思う 市小中学校長会役員との懇談会        |
| 3面 | 教育事務所長・市教育長との懇談会            |
| 4面 | 賀寿伝達の様子                     |
| 5面 | 賀寿・賀詞伝達の様子                  |
| 6面 | 十日会報告 叙勲の栄誉に輝く 青少年健全育成      |
| 7面 | 支部の伝言板 青少年健全育成 逝去を悼み冥福を祈ります |
| 8面 | 文芸                          |

## 新年を迎えて

### 想像力

いわき支部長 沢 宏 一



どうしても稲穂が実った棚田を描きたくて、家内を誘って新潟県にある山古志の棚田を見に出かけた。

綺麗に色付いた棚田をじっくり見た後、車を走らせていると、村の施設「おらたる」近くに多数の車が止まっていた。何かあるのだろうと思いついてみると、これから天皇陛下の長女である愛子様が来るというのだ。私たち夫婦は、「出待ち」が出来るのか尋ねてみた。「検査を受けて、所定の場所なら」との回答だったので、持ち物検査や金属探

知機の検査も受けてから、所定の場所で愛子様を待った。

山古志は、20年前の中越地震による崖崩れで、大きな被害を受けた地域であり、当時の被害や復興状況を伝える「おらたる」という施設を造ったのだった。丁度新潟で全国防災会議が開かれており、愛子様が来県している所に私たちが出くわしたのであった。待つこと約30分。愛様が



階段を降りてきた。お迎えの車にすぐに乗るのではなく、館長さんらしき方としばらくお話をなさってくれた。まるで、出待ちしている私達にシャッターチャンスを与えてくれているように、笑顔で話をされているのである。その時、一人の警察官がこちらを見て「その方、どうぞ前の方に来て」と愛子様が見えないでがっかりしていたご老人の方を一番前に案内してく

れたのである。

さて、出待ちをしている私たちの方を笑顔で見ながら話をされていた愛子様。高齢の方の気持ちを考えながら見やすい位置に案内してくれた警備の方。それぞれに相手の気持ちに思い温かな想像力を感ずいた。

新年にあたり、私たち退職校長会の会員同士も、そんな関係であり続けたいと思ったエピソードになった。

## 新春諷詠

初日のひかり

阿部 良全

四百の賀状手書きし平成期

生きる此の春九十八歳

百歳をめざし生きよと出づる陽か

初日のひかり浴びて吟詠

## 事務局だより

令和7年度は、「いわき支部創立60周年記念大会」として「総会」「懇親会」を開催することができました。

また、「いわき十日会」も会員全員にお知らせのハガキを出し、開催することができました。

令和7年度も会員の皆様のご協力のもと会の活動が円滑に進められたこと感謝申し上げます。

今後とも私たち事務局員は会員の方々ともども会の運営に努めてまいりますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### 【年度末の予定】

- ①会計監査 3月14日(土) 中央台公民館にて11時より
- ②理事会 3月14日(土) 中央台公民館にて13時30分より
- ③第61回いわき支部総会 4月18日(土) 椿山荘にて13時より

(村田幹事長)

# 謹賀新年

2026. 1. 1

顧問／高木 清 正衛三之健二一  
 山内 賀 裕 雅 宏 幸子 啓文 良政 保子 三雄  
 鈴木 増 井 宏 一  
 支部長／沢 武田 飯塚 根本 小峰 美保 昭三 正雄  
 副支部長／ 根 齋 藤 稲 沼  
 監 事／

## 新春に思う

今年、午年。午年生まれの会員に、新しい年の思いなどを綴っていた。

### 駿馬と駄馬

澤井 史郎

世の中には優者と劣者がいる。そして前者を良しとする傾向がある。教育に携わった者も優者を育てることに情熱を傾けてきた。そして優劣を付け、「排除」することが当たり前になってきてしまった。駿馬と駄馬は、正にその例で駄馬は、直ちに排除されてしまふ。しかし、駄馬には最後まで諦めないで、自分の目標を達成するまで努力する馬もいる。喝采を浴びることは決して無いが、私は駄馬として今年一年間を過ごしてみたい。

### 今年も元気に

高澤 昭子

私が日々の生活の中で頑張ろうと思っていることの一つにウォーキングがあります。やる気スイッチをフル稼働させ、小さなことから始めて続けることを大事にしています。道端の草花が教えてくれる季節の訪れを感じながら、こんな風に歩ける幸せがずっと続くよう願っています。そのためにも体調管理と脳活に努め、少し増えてきたうっかりや物忘れを自分なりに受け入れて、今年も元気に過ごしていこうと思います。

### 年賀状

箱崎 二三男

今年六度目の年男を迎えて来年から年賀状でのご挨拶は失礼することに致しました。その事を伝えるために、昨年に頂いていた年賀状の添え書きを改めて読み返して見ると教え子たちの近況報告に昔のことが懐かしく思い出されて胸が熱くなりました。教師として貴重な時間を共に費やしてきた思い出は一生の宝物であると痛感しました。やはりもう少し教え子たちとのやり取りだけは続きそうです。

### 現職校長会および十日会 青少年健全育成協議会の 教育懇談会 報告

9月11日、平三小において

小中高等学校の現職校長会の役員の方々と沢支部長始め青少年健全育成協議会長を含めた6名の役員が参加して行われました。今年度は、青少年健全育成協議会も兼ねた教育懇談会となりました。懇談会では、次のことについて話し

合いが行われました。  
 ●生徒指導について  
 SNS・いじめ・不登校・不審者対応・校則の見直し・自転車通学のヘルメット着用など様々な課題・問題の報告がありました。学校現場では、学校間・保護者などと連携を深め、危機意識を高くして日々取り組んでいます。

#### ●教員の人材不足について

教員の深刻な人材不足の中、次の2点についても話し合われました。

①磐城桜が丘高校が教育コーズの取り組みを進めていること。

②退職校長会でも人材バンク等で教育現場の支援に努めていきたいこと。

#### ●学力向上について

各学校では、全国学調・ふくしま学調の結果をもとに、自校の学力分析とともに市教委の分析を合わせて授業の充実、家庭への働きかけに努めています。

#### ●働き方改革について

働き方改革に向けて教育活動・事務処理などのスリム化・

削減に向けて取り組んでいます。

#### ●部活動地域移行について

地域展開を目指した部活動地域移行の取り組みについても話し合われました。部活動の実態として、少子化の影響で中学校ばかりでなく、高校においても複数校でチーム編成をする部活もあるなどの事例についても話し合われました。

#### ●その他

熱中症予防、ギガスクール、特別支援学級の増加、高校再編などについても話し合いました。

お忙しい中、現職校長会役員の方々には参加していただいたことを感謝するとともに小中高の12年間を見据えた連携の強化の大切さを再確認できた会となりました。

(村田幹事長)



## 教育事務所長との懇談会

10月15日、いわき合同庁舎4階中会議室でいわき教育事務所長との教育懇談会が開催された。

いわき教育事務所からは芳賀稔所長、箱崎兼一次長、本会からは沢支部長他5名が参加した。

沢支部長と芳賀所長の挨拶の後、箱崎次長よりいわき管内での課題6点についての説明があった。

課題として  
○学力向上について  
○不登校について

○教師、講師不足について  
○教頭昇任受験者の減少について

○働き方改革について  
○不祥事根絶について  
等があげられた。

主に学力向上と教育不足について協議した。

文章が読めない、文章構成ができないなどの国語力の低下等について懸念している。良い授業の実施、学ぶ意味づけ、キャリア教育とも結びつけて実践していったらどうか。



それぞれの分野で連携し働ける場を作る必要がある。広報いわきに載せることで人材発掘に寄与した例がある。また、退職校長会の人材バンクからの支援で養護学校での不足の教員を確保することができた。

沢支部長より退職校長会は、学校現場の先生方と子ども達の応援団として頑張りたい旨を話し、人材バンクを立ち上げたので活用してほしいとの意向を伝えた。  
(武田幸子副支部長)

## 市教育長との教育懇談会

令和7年10月3日、いわき市教育委員会から服部樹理教育長をはじめ、寺島学校教育推進室長、津田学校教育課長、福原総合教育センター所長他4名の管理主事、退職校長会から沢宏一支部長、武田、飯塚副支部長、村田幹事長、鶴沼広報委員長と根本が参加して、「いわき市の教育行財政の現状と課題」について説明を受けての懇談となりました。

以下は、市教委からの説明内容となります。

### 部活動地域展開について

「令和9年度以降の休日における部活動は、地域展開の達成を目指す」ことを市の理念とし、「令和9年度以降、学校として休日の部活動は行わない」ことになる。休日の運動・文化芸術活動を希望する生徒は、各自の判断により地域の団体で活動する。令和8年度から平日の部活動の一部を地域団体へ受け入れてもらうことにする。

令和6年度モデル事業実施後の保護者、地域団体、スポ少アンケートから、生徒の送迎面での不安、受益者負担、指導者不足、会場不足等いわき市の課題があるが、市内各地域でのスポーツ・文化芸術環境を整備しての送迎の格差を解消し、小中教員、市民の人材バンク登録制度を構築して指導者の確保を図る。令和9年度より、平日の地域展開におけるモデル事業開始予定。

### 特別支援教育について

いわき市の児童生徒数は減少傾向にあるが、特別支援学級に入級する児童生徒や通常の学級に在籍する障害のある児童生徒数は増加傾向にある。

令和7年度は小学校49校(全59校)に特別支援学級を設置、中学校25校(全中学校34校)に特別支援学級を設置。

基本情報等の入力により、児童生徒の特性をより客観的に把握し、特性に応じた最適な教材選定を可能とするため、特別支援教育ソフト「LITAIICO」を導入。これにより、教育支援計画等の作成、指導教材の提供、研修



動画による研修が可能となる。  
教育支援アドバイザーの総合教育支援センター配置(令和7年度3名)により、管理職・学級担任を支援している。  
特別支援教育の課題解消に向けて、教職員、支援員に対して特別支援教育の理論や実践手法等の研修の充実に努め、特別支援学級における学習指導の充実のため、特別支援教育ソフトの活用を促進する。  
退職校長会沢宏一支部長が退職校長会要望書を手交し、御礼の言葉を述べ閉会しました。  
(根本良政副支部長)

おめでとうござい  
長寿のお祝い



賀寿 油座 三治氏

草野・神谷  
昭和5年7月5日生

油座三治先生の誕生日にあたる7月5日に方部長中根孝雄先生と方部委員2名でご自宅を訪問しました。

ご自宅ではご夫妻と娘さんが迎えてくださいました。

ご挨拶後に、福島県退職校長会より賀寿の賞状といわき支部より記念品を中根会長からお渡しすることができました。

先生は湯本第一中学校を退職後、地域への貢献に尽力され、現在も隣組の組長として地域の方々と連絡を密に取り合い、率先して活動しているとのことでした。

また、健康の秘訣をお尋ねしたところ、

「毎日二千歩以上散歩していることかなあ」とおっしゃられました。

そのお元氣なお姿に、こちらが元氣をもらった次第でした。

(草野・神谷方部委員 門馬栄)

賀寿 白土 信美氏

平南  
昭和5年7月19日生

盛夏の候、快晴に恵まれた7月19日、白土信美先生の満95歳の誕生日に賀寿の賞状とお祝いの品をご自宅にお届け致しました。

先生と奥様が玄関先まで温かくお迎えくださいました。

先生は長時間の起立は体力的にも負担があると謙虚に話されましたが、ひとたび会話が始まるとその語り口は力強く、特に泉中学校在職時代の生徒たちの活躍や部活動での日々を懐かしそうに振り返るお姿が印象的でした。

現在は、百歳の長寿を健やかに迎えられることを目標に、趣味を楽しみながら過ごされているそうです。

その傍らで、献身的に寄りそう奥様との睦まじいお姿に、先生のご長寿の秘訣を拝見した思いがいたしました。

先生のますますのご健勝と輝かしいご長寿を心よりお祈り

申し上げます。

賀寿 伊藤 集三氏

草野・神谷  
昭和5年8月21日生

伊藤集三先生の誕生日後、8月23日に、中根方部長と方部委員2名でご自宅を訪問しました。

ご自宅では、ご夫妻と娘さんが迎えてくださいました。

ご挨拶後に賞状と記念品を中根方部長からお渡しすることができました。

先生は高坂小学校が最終勤務校ですが、現役の頃から版画・絵画制作に励まれていて、退職後も「ランプ画会」の会員として多数作品を出品されているとのこと。版画では様々な賞を受賞され、お部屋にはたくさん作品、賞状が飾られていました。

近年少し足が弱られたとのことですが、今回のランプ画会展にも出品したとのこと。

その創作意欲に感心させられ、またまた元氣をもらった次第でした。

(草野・神谷方部委員 門馬栄)

賀寿 大平 喜好氏

草野・神谷  
昭和5年9月17日生

大平喜好先生の自宅には、お誕生日後の9月27日に向かわせていただきました。

大平喜好先生は、現在療養中とのことでしたが、ご子息であり本会員でもある大平好一先生に、中根方部長から賞状と記念品をお渡しすることができました。

その後、好一先生ご夫妻から喜好先生の近況についてお聞きすることができました。

喜好先生は夏井小学校を退職されたあと、農家を継ぎながら地域のまとめ役として、長年区長を務められ、地域に貢献してきたとのこと。

近年、大病を患いましたが、持ち前の不屈の精神力で回復されたとのことでした。今度はお元氣な姿でお話を聞かせていただければと思いつつご自宅を後にしました。

先生のますますのご健勝をお祈りいたしております。

(草野・神谷方部委員 門馬栄)

先生は、令和8年1月3日に逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

賀寿 川村 名氏

平南  
昭和5年11月15日生

錦秋の11月15日、川村先生のお誕生日に合わせ、ご入所の施設を訪問いたしました。

広々としたロビーにて賀寿の賞状とお祝いの品をお届けいたしました。

食堂にてお茶を囲みながら和やかなひとときを過ごさせていただきました。

「先生が足腰は弱くなったが、手厚い看護のおかげで元気に生活できている」と笑顔で語られ、

「親しい校長先生との交流が何よりも楽しみであり、老いを忘れるほどだ」とお話しくださいました。

かつて本会の役員として要職を歴任された日々を振り返り、

「今も恩返しをしたいが、年ゆえにかなわないのが残念だ」と述べられているお姿に組織を支えてこられた強い責任感と深い愛情を拝察いたしました。

先生の今後ますますのご健康とご多幸、そして輝かしいご長寿を心より祈念申し上げます。

健康とご多幸、そして輝かしいご長寿を心より祈念申し上げます。

げます。

(平南方部委員 飯島裕人)

賀壽 宮内 壽雄氏

赤井 昭和5年12月26日生

12月26日、赤井方部の宮内壽雄先生の95歳の賀寿のお祝のため、ご自宅を訪問し、お祝状を伝達させていただきました。

宮内先生からは、湯本第一中学校や小川中学校等、多くの学校で生徒の学力向上や部活動指導等に取り組まれた思い出をお聞きしました。

特に初任校であった赤井第二中学校での理科学習や自然観察等に取り組んだことが、忘れられない思い出として心に残っているとのことでした。

その他にも、校長時代、県内一の大規模校だった小名浜第一中学校での生徒指導のご苦労話や、部活動での生徒達の素晴らしい活躍ぶり等、感激するお話もたくさんお聞きいたしました。

先生のますますのご健勝を心から祈念しながら、ご自宅を後にしました。

(沢支部長)

平南

賀詞 安藤 五郎氏

昭和12年6月28日生

爽やかな風が吹く先生のお誕生日に賀詞の賞状とお祝いの品をお届けしました。

ご自宅では先生と奥様があたたかく迎えてくださいます。先生は最近大病を患い、一時期は消極的な生活になられたとのことですが、現在は

気力を奮い起こし、ウォーキングなどの運動に励んでおられ、病に向き合うそのお顔は、生気溢れ、力強い語り口に深い感銘を受けました。

また、奥様は私の小学校時代の担任という縁深い先生です。ご夫妻が目や輝かせて教育への情熱を語られるお姿に児童を思う深い慈愛を感じ、胸が熱くなる思いでした。

両先生のこれまでのご苦労に敬意を表しますとともに、今後ますますのご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。

(平南方部委員 飯島裕人)

平窪

賀詞 阿部 正孝氏

昭和12年9月24日生

誕生日の9月24日、方部委員が代表してご自宅にお伺いし、賀詞のお祝い状をお届けしました。

奥様と共に温かくお迎えくださり、和やかな雰囲気の中で、持ち前の明るい元気なお声で楽しいお話をたくさんしてくださいました。

現職時代では、よき先輩に恵まれ、通常学級担任と特別支援学級担任の両方を経験できたこと、また中学校勤務と小学校勤務の両方を経験できたことが、自分の大きな財産になったこと、退職後には、「ランプ画会」

に入会し、趣味の絵画を描き続ける(11月に米寿記念作品集出版)とともに、近くの畑で野菜作りに精を出すことが楽しみであり、元

気の源になっていること等、心に残るお話をお聞きすることができました。

先生の益々のご健勝を心からご祈念申し上げます。

(平窪方部委員 斎藤昭三)

平南

賀詞 小野 功氏

昭和12年10月8日生

秋色深まりゆく日、先生のご自宅を訪問し、賀詞の賞状とお祝いの品をお届けいたしました。

お話を伺う中で、現在は体調管理に留意され、「規則正しい生活と、よく食べ、よく寝て、よく動くことが肝要である」と、日々を大切に歩まれている姿勢に感銘を受けました。

また、教職時代については、「子どもが一番である」と強い信念を持って職務にあたり、その教育愛に改めて敬服しました。

さらに、20年近くに及ぶ奥様への献身的な介護のお話からは、先生の深い愛情とお人柄の滲む慈しみを感じ、胸が熱くなりました。

現在は健康維持への意欲を示されており、今後ますますのご健康とご多幸を祈念申し上げます。

(平南方部委員 飯島裕人)

飯野

賀詞 山内 正衛氏

昭和13年1月5日生

令和8年1月22日に、方部長の鈴木光男先生と娘さん宅へ伺いました。ご自宅は現在改装中とのこと。

ご家族とともに温かく迎えてくださり、和やかな雰囲気の中で鈴木方部長から賀詞のお祝い状と記念品をお渡ししました。

先生からは、ご幼少の頃から現職中、そして退職後のことまで多岐にわたってお話をいただきました。

現在、仲間と一緒に楽しんできたゴルフができないことから、健康のために週に2日ジムに通ってトレーニングをしているとのことでした。リビングに置いてあるエアロバイクを時々漕いで足腰を鍛えているそうです。

ご自宅は7月には完成する予定で、その後ご家族と一緒に暮らすことを楽しみにしておられるようでした。

先生の益々のご健勝を心からご祈念申し上げます。

(飯野方部委員 鈴木重則)

# 親睦の場は、貴重な情報交換の場 第69回 十日会報告

穏やかな冬晴れとなった1月10日、椿山荘において第69回いわき十日会が開催された。参加者は、本会40名・小学校長会15名・中学校長会11名の計66名。現職は、役員の先生方のみ。本会の会員の中には90歳を超えた方もいらして、頼もしい限り。

定刻、植田小学校和田裕二先生の司会で会がスタート。

開会のことばは、小学校長会長平第三小学校菅野輝義先生、続く主催者あいさつで沢支部長は、世相に触れた後、小中学校の児童・生徒・PTAの活躍・業績について述べた。最後に、この会の主目的



である交流を十分に深めてほしいと力を込めた。

鈴木雅之顧問の音頭で乾杯し、祝宴に移った。

交流は、時間いっぱい続き目的は十分に達せられたと思われる。

閉会のことばは、中学校長会小名浜第一中学校草野秀一先生がつとめた。

今回感じたこと聴いたことについて述べてみたい。

- ①会の持ち方について  
概ね今の形で良いのではという意見が多かった。
- ・現職の先生方にも好評。
- ・参加できなかつた会員の皆さんも意見があれば、広報委員まで。

- ②料理について  
料理の無駄が少なくなったように感じた。今まで、残る料理の多さに、心痛むことが多かったが、やり方に工夫を凝らすことで、少なくなつたようである。
- ・どのテーブルでも現職の先



生方が取り分けてくださり（現職の先生方の作戦か？）「全部食べたわ。」との声も聞かれた。ちよつと足りないと思うぐらいで良いのではないかとの意見も。この会は貴重な交流の機会のひとつ、来年は参加者が増えることを願っている。



クラブの写真

## 叙勲の栄誉に輝く

感謝

沢 宏一

11月12日、ホテルニューオータニにおいて、勲記勲章の伝達がありました。その後、夫婦共々皇居に参内し、天皇陛下に拝謁して、お言葉を賜りました。つくづく有難いことだと思えました。

なつたことに戸惑い、責任ある立場ということは、こういうことかと思えました。行政機関での勤務も、それまでの勉強不足に、後悔の連続でした。今でも、現職時代の事を夢見ることがあります。19年間の単身赴任時代を思い出すと、妻や我が子にも感謝の気持ち

原町市生まれの私の教員時代は、桶売小学校で始まりました。初めての研究授業で何も分からず、先輩の先生から多くのことを教えていただいたことを、今でも鮮明に覚えています。教頭や校長時代、「沢先生。」と名前と呼ばれなく

が沸いてきます。叙勲といえども、誇れることは何一つありません。先輩の先生や同僚、保護者の方や多くの子ども達に「心から感謝したい。」と思っています。

## 青少年健全育成協議会報告

笹川 育正

昨年9月11日に平三小で実施いたしました。今年度から

【協議の報告】

会のスリム化をめざし、「現職校長会との教育懇談会」の開催時に、本会を兼ねて実施することといたしました。生徒指導上の協議内容は次の通りです。

（小学校の生徒指導上の課題等について）

- 不登校、不登校傾向の児童が増えている。
- 不審者情報（声かけ等）が増加傾向にある。
- 携帯電話やスマホ、ゲーム

機等のネット端末の所持率が増加傾向にあり、そのことによるトラブルが増加している。

○各支部ごとに連Pとの連携を図り、基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の定着を目指した取り組みを推進している。

・「支部小・中学校のきまり(校外編)」の配布

・ノーマメディアデーの設定

・「ふくしまの家庭学習スタンダード」の活用

(中学校の生徒指導上の課題等について)

○不登校対策は、継続的に実施している。

○昨年度より不審者情報が増加している。そのなか、生徒の危機意識の向上もみられる。

○SNS等で画像を拡散するなどから、トラブルが増加している。

○校則の見直しは、生徒会中心に進める学校が増えていく。また、制服の見直しを行う学校も見られる。

方部の伝言板

64

小名浜方部の近況

吉田 幹男

——小名浜方部——

小名浜方部はいわき市の南東部に位置しており、江名小名浜、泉などの旧市町村が合わさった地域です。特に小名浜は港を中心とした漁港、工業港、観光地として発展し、アクアマリンふくしま、イオンモールいわき小名浜店等には市内外から連日多数の人の往来があります。さらに、令和7年8月には常磐道から小名浜港に直接行ける小名浜道路が開通し、物流、産業、観光のさらなる活性化へと導いています。そして2年後にはいわきFCの1万人が収容できる新スタジアムが小名浜港の県有地に着工予定です。今後も伸びゆく小名浜地区です。小名浜方部退職校長会は地域が港町でもあり「潮香会」と呼称しています。今年度は、様々な活動が再開している中で自粛していた懇親会を久しぶりに開催することができました。各自が近況報告した後

は、会員相互が自由に親睦を図り、閉会時刻を過ぎても話題は尽きず、時間を延長しても話が途切れることはありませんでした。盛会に終わりで、次年度の会場予約をするほどでした。また、定年退職延長に伴い、年金受給まで時間がある会員の皆様に支援するために、総会の後に後援会を開きました。退職後のライフセミナーとして、ファイナンシャルプランナーの資格を持つ専門家を講師に「退職・年金・老後のワークプラン、マネープラン」と題して、年金をもらう際の手続きや確定申告の手続き、今後の生活のマネープラン等のお話を伺いました。今後に役立てていただければ幸いです。現在、当方部の会員は37名です。毎年新会員も入会してきます。通常の活動に戻った今こそ、方部内の会員親睦を深めていきたいものです。

ご逝去を悼み心からご冥福を祈ります

故 佐藤 礼右先生

誕生 昭和12年8月29日

逝去 令和7年5月8日

故 坂本 高先生

誕生 昭和12年3月8日

逝去 令和7年6月24日

故 丹野 順子先生

誕生 昭和18年4月2日

逝去 令和7年6月26日

故 渡部 祐亨先生

誕生 昭和10年5月21日

逝去 令和7年8月27日

故 佐藤 保久先生

誕生 昭和29年3月22日

逝去 令和7年8月29日

故 片寄 善勝先生

誕生 昭和20年4月1日

逝去 令和7年9月7日

故 大平 喜好先生

誕生 昭和5年9月17日

逝去 令和8年1月3日

故 須藤 泰将先生

誕生 昭和6年7月6日

逝去 令和8年1月11日

遺族 鈴木 正人



# 文芸欄

## 随想

### 卒寿を迎える

佐々木 澄子

オーストラリア在住の教え子から、今年もクリスマスカードが送られて来た。教え子といっても彼女は72才巳年のトシオンナである。

卒業以来、60年にもなるのに、年1回の帰郷の折は、必ず会食。特に深刻な話題があるわけでもないが、何となし満ち足りた想いのひとときが

過ぎて行く。昨年、思いもしない夫との別れ、今年も私の転倒による複雑骨折など、生きている限り、何が起きるか分からないと、つくづく驚かされた。

しかし、週2回のデイサービス、温水プールでの水中歩行、同年代の利用者との談話など、平凡なプログラムではあるが、穏やかな老後を通じて頂いていることに感謝している。

全て、神様の思し召しと受け留めて、一日一日を大切に生きて行きたいと思っている。

## 書

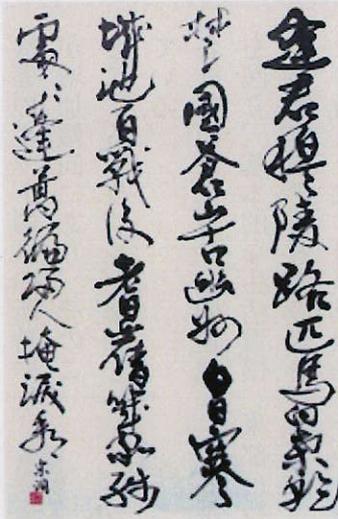
「旅夜書懷」杜甫詩

平子 宗司

細草 微風の岸  
危橋 獨夜の舟  
星は 平野に垂れて濶く

月は 大江に湧きて流る  
名 豈に文章に著れんや  
官は 應に老病もて休むべし

飄飄として 何にか似たる所ぞ  
天地の一沙鷗



「旅夜書懷」は杜甫最晩年の作品の一つを書いたもので、病の身を抱えた放浪の

## 絵画

「上陸したシーラカンス」伊藤 弘子



「生きた化石」と称されているシーラカンスは、深海魚。

このシーラカンスが上陸した場面を想像した。頑丈な顎骨で大きく口を開け不動のまま餌を捉える習性は、上陸しても巧みに使っている場面を描いてみた。  
(ランブ画会いわき美術協会展、県展で展示済みの作品)

## 短歌

柚子の香

引地 晴子

「異常なし 今年も無事に過ごせたね」医者の一言

希望湧きくる

柚子香る蜂蜜大根漬け込みて

おせち一品彩り添へる

## 俳句

春を待つ

高橋 彦士

耐へて待つ一幹の黙春隣

老ゆるとは軽くなること

寒明くる

## 川柳

志賀 英信

戦止めて平和な世界

今年こそ

学級増聞いてうれしい

豊間小

## 編集後記

中学校一年国語の教科書に「『不便』の価値を見つけ直す」という意見文が載っています。高年齢を生きる私達にも示唆を与えてくれる文章でしたので紹介させて頂きます。

筆者はシステム工学を専門とする工学博士ですが、『不便益(不便のよい面)』を研究しています。

意図的にバリア(段差・坂・階段)を取り入れた介護施設は入居者の労力は増えるけれども、身体能力の低下を防ぐというよさがあることを紹介しています。『不便益』に着目すると世界を多様に見ることができるとも述べています。私達は一般的に「便利がよい」「不便は悪い」と思いがちです。しかし、「不便だな」「面倒だな」と思う日常生活の中で『不便益』を見つづけることは、心身の衰えを感じながら日々を送る私達でもモチベーションを高め、やり遂げたときの達成感を味わうことができるのではないかと考え紹介させて頂きました。(金子美津子)